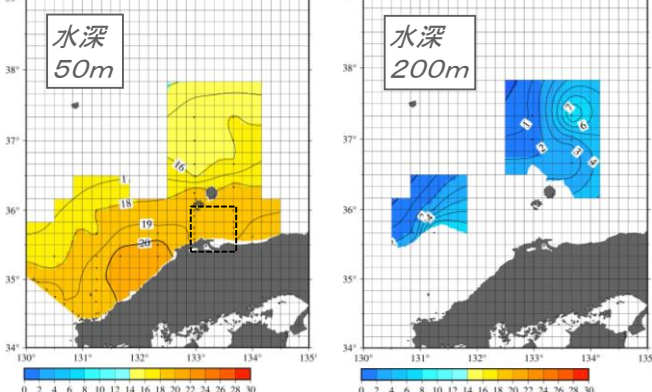


表面
平均水温は18.7℃(18.3~19.1℃)を示しています。
【前年差:-0.9℃、平年(直近30年)差:+0.2℃】

水深100m
平均水温は15.7℃(15.4~16.0℃)を示しています。
【前年差:+1.3℃、平年(直近30年)差:+1.3℃】



水深50m
平均水温は18.7℃(18.4~18.9℃)を示しています。
【前年差:-0.9℃、平年(直近30年)差:+0.2℃】

水深200m
隠岐諸島北東方N37°20'付近に8℃以上を示す暖水塊があります。

12月上旬の水塊配置と対馬暖流

鳥根沖冷水 隠岐諸島北方 山陰・若狭沖冷水

鳥根沖冷水域 山陰・若狭沖冷水域	該当海域で観測が出来ず 不明
隠岐諸島北方の冷水域	N36°30'以北に冷水域(13℃以下)が認められます。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい流れると考えられます。隠岐諸島北方では13℃等温線に沿って北東に向かう流れが生じる可能性があります。

水産振興課・漁業調整課

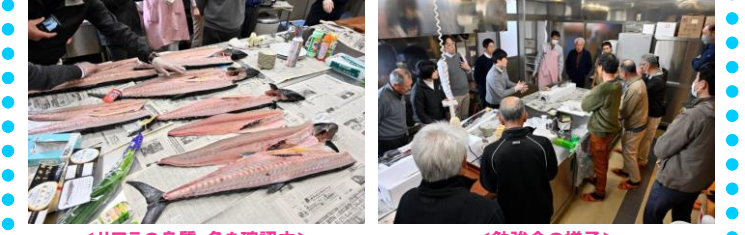
～中山産さわらのブランド化に向けて～

今年度から鳥取県漁業協同組合中山支所は中山産さわらのブランド化に取り組んでおり、12月13日にフレンチシェフの高山英紀氏をアドバイザーに迎え、勉強会を開催しました。

高山氏は、世界的にも注目のトップシェフであり、鳥取県産ブランドさわらの品質を高く評価されています。

勉強会では、中山産さわらと処理方法が異なる県内外のさわり計6種の肴状態、見た目、締め方の違いや身質を比較し、実食して味や食感を評価しました。その結果、高山氏からは「中山産は処理が丁寧で味も良い」という評価を受け、漁業者の方からは「シェフから高評価をいただき、自信が出た」という声が聞かれました。

新ブランドの確立に向けてよい弾みになりました



栽培漁業センター

今年も美保湾で境港サーモンの養殖がはじまりました！

今年も境港サーモンの沖出し(淡水養殖→海水養殖へ移行)の時期となりました。海面生質で大きく成長した境港サーモンの姿がお披露目されるのは春ですが、実は初冬もまた、沖出しという一大イベントがある境港サーモンにとって重要な時期です。

境港サーモンは、1月頃に生まれて11月頃まで山間部の清流豊かな養魚場で時間をかけて大切に育てられます。その後、美保湾で2kg前後まで育てられた後、4～5月に水揚げされます。海で育つイメージが強い魚ですが、じつは一生涯のうち半分以上を淡水で過ごしています。

現在、栽培漁業センターでは、沖出し前後の時期における給餌効率改善の検討など多様な試験を行うことでギンサケの水揚げ量増大に向けた側面支援を行っています。



水産試験場 令和5年度第1回境港地区漁海況連絡会議

境港地区の水産関係者の方を対象に、当場の研究員から水温等の海洋環境や、アジ・サバ・イワシ・ブリといった浮魚、ズワイガニを中心とした底魚の漁様や今後の見通しについて報告する連絡会議を12月14日(木)に県営境港水産物地方卸売市場の大研修室にて行いました。

当日は、師走のお忙しい中、40名を超える方々にご参加していただき、誠にありがとうございました。各報告内容の概要は以下のとおりです。

1月上旬の海況予報

- 鳥取県沿岸域の水温は前年より高めに推移
- 鳥根沖冷水は局所的にN36°付近まで接岸し、山陰・若狭沖冷水はN38°以北まで離岸する可能性がある
- 対馬暖流鳥根沖冷水の13℃等温線に沿って流れ、鳥取県東部～兵庫県沖ではN38°以北を北東に向かう流れが生じると考えられる

水深100m (2024年)の予測等温図
～海況予測モデルFRA-ROMS2～

各魚種の漁況の見通しまたは直近の漁況

魚種	予報期間	コメント	
浮魚	スルメイカ 12月～2月	前年並みとなり、平年(直近5年)を下回る見込み。	
	マイワシ	前年並み、平年を上回る(来年主体となる0歳魚[15cm未満]の秋の漁況は好調で、資源量・加入量も増加傾向にある。)	
	マサバ 1月～3月	前年・平年並み(資源量・加入量は回復し漁獲量は安定している。一方で来年主体となる0歳魚[25cm未満]の秋の水揚げが少ない状況)	
	マアジ	前年並み、平年を下回る(親魚量は増加傾向であるものの、本年1歳魚[16-18cm程度]の水揚げが少ない。0歳魚[16cm未満]の秋の水揚げも少ない状況)	
	ブリ 12月～3月	前年、平年を下回る。(ワラサ、ツバスとも前年、平年を下回る。)	
底魚	松葉に 11月6日～翌年3月20日	前年並みで、平年を下回る(11月までの漁獲量は前年・平年を下回る状況で前年より大型銘柄の漁獲枚数が減少)	
	親がに 11月6日～12月31日	前年並みか、やや前年及び平年を上回り、資源は回復基調にあると推測(11月までの漁獲量は前年・平年並み)	
	若松葉 2月1日～2月29日	資源量は前年並み(漁獲枚数制限により漁獲量は前年・平年並み)	
	魚種	直近の漁況	コメント
	アカガレイ	漁獲量は前年を下回り(前年比79%)、平年を上回る(平年比128%)	
	ソウハチ	漁獲量は前年を下回り(70%)、平年を下回る(平年比63%)	
	マダラ	漁獲量は前年を下回り(71%)、平年を下回る(前年比59%)	
あかえび	漁獲量は前年を下回り(前年比70%)、平年並(平年比85%)		
全体	漁獲量は前年並(前年比84%)、漁獲金額も前年並(前年比84%)。ソウハチ、マダラ等の主要魚種の漁獲状況が低調な状況だが、他魚種で漁獲量を確保し、単価も高い水準でキープされており水揚げの大きな減少には至っていない。		

【お知らせ】第2回境港地区漁海況連絡会議は2024年3月中旬に開催予定です

令和5年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 千750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424

境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 千684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

潮に夢を

共和水産株式会社

代表取締役 橋津 寛

千684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530